

【沈おこし】

- 1: まずはメインシートがラダーやセンターボードに絡んでいないか確認し、風を背に受けた状態に艇を回します。船底に乗ってセンターボードをつかむ
- 2: 体重をかけながらセンターボードを手前に引くと、艇が起き上がってきます。
- 3: 艇が起き上がった後コクピットの中に入り、メインシートと舵を調整しながらセーリングに風をはらませます。

沈おこしのテクニックは色々ありますがこれはサンフランシスコロール! 1回転して起こします

かっこいいでしょ!



船体は空気が詰まっているので沈みません

ランニング

追い風で帰港する



追い風は簡単そうに見えるけど実は一番難しい操船ですが、これが僕の得意技です



スピードに乗って楽しいです



左右のバランス調整が大変です!

着艇

片付けるまでがセーリングです!!

艇は風上に向けながらメインシートを緩めていくと、セーリングが風をはらまなくなると艇は減速し、惰力でしばらく走った後に船足が止まります。また追い風で岸に戻らなければならない時は止める場所に接近したらすぐに風上に向けセンターボードを抜き取り、艇から降りて船を押さえますが、案外難しいです



大事なセーリングは曇んで倉庫に保管します

本日乗った船です



レーザーラジアル級
全長: 4.23m / 幅: 1.37m
重量: 58kg
セーリング面積: 5.7㎡
北京オリンピックから正式種目

【ヨットの服装】

ヨットは、昔から「晴れでも雨支度、夏でも冬支度」と言われています。濡れてもかまわない服装、濡れたり風に吹かれたりしても寒くならない服装をし、靴は滑りにくく濡れてもかまわないものを履きます。ウェットスーツやディンギーブーツが理想形。ライフジャケットは必需品です。



お疲れ様でしたこれから頑張ります!!

本日のヨットマン
岡田大治君(神奈川県立藤沢総合高校2年生)
2017年 Laser4.7級ユース世界選手権代表
選考ランキング男子第3位(2017年4月時点)

表紙写真について
撮影中、大治君のヨット仲間と遭遇してランデブーを楽しみました。併走しているのは白石尊輝君、中島優輝君

yachtjin vol.02

ハーバーに着岸する前にセンターボードを引抜き抜きます

片付ける前に船体やパーツをよく水洗いして塩分を落とします

カバーをかけて終了です

実際にヨットを走らせてみよう！

機装 出港の準備をする。



大治です！
今日は僕が乗ります！

レーザーはマストが2分割されているのでそれを繋げてセーリング。セールの端は筒状の穴があり、そこにマストを入れていきます。(大きな旗と同じです)



マストを立てます。

ここはちょっと力がある・・・
応援団長が大きな旗を持つ感じ？



W
風上に向けないと
セーリングを張った時
風で倒れちゃいます

ヨットを風上に向け。他の装備を
セッティングします。



ラダー(かじ)を取り付ける。陸上なので
地面につけないようにセッティング
します。



スロープからエントリーします



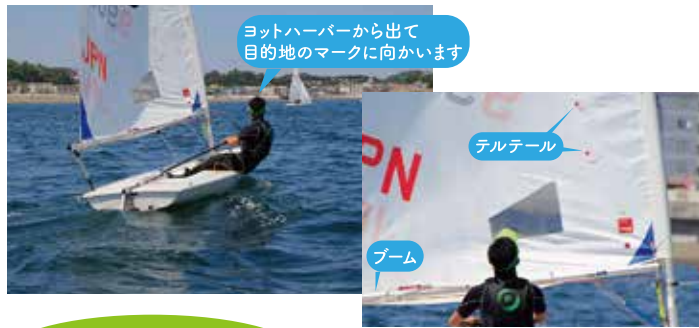
セーリングはエンジン、ラダーから伸びる
棒はティラーといい、車と言うとハンド
ル。この二つを、風の変化を先読み
しながら操作しながら帆走していきま
す。

出艇



差し込むだけ

まずセンターボード(横流れ防止して
艇の安定を保つもの)を差し込んで、
陸上でセッティングしていたラダーを
水中に下ろします。



ヨットハーバーから出て
目的地のマークに向かいます

テルテル

ブーム

クローズ で風上に走る

【クローズホールドを走る】

今回は風上のマークに向かってクローズホールド(通称クローズ)で帆走。
ヨットは風上に真っ直ぐには走れないのでジグザグに走りながら向かいます・・・
セーリングは原則目一杯引き込みます。(なるべくヨットを水平に保ちます)セー
ルの開閉でスピードの調整をします。セーリングの表と裏に付いている小さな毛糸
(テルテル)が横にうまくなびている角度を調整しながら走ります。



W
ハイクアウトで
バランスをとります



タッキングして
ジグザグに走ります

W



セーリングが回り出したら
すかさず回り込む



W

クローズは斜め前方から風を受けるため、
艇は風下に向かって押されるように傾斜しま
す。傾斜し過ぎると艇はバランスを崩して横
転しますから、セイラーは風上サイドのデッ
キから外に体を乗り出し、体重を使って傾斜
の度合いをコントロールします。これがハイ
クアウトです。

ヨットが風上に
走れる理由は
Vol.1をみてください

目的地

タッキング

WIND

WIND

タッキング

【タッキングをする】
ジグザグに走るため
にはヨットの向きを変
えなくてはなりません。
それで必要なのが「タ
ッキング(通称
タック)」です。



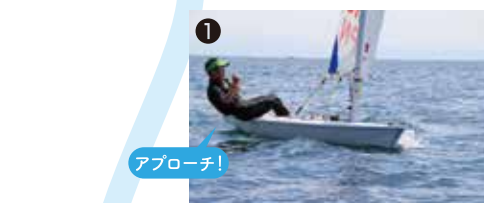
W
ハイクアウトで
バランスをとります

周りのヨットとの位置関係も
気にしながら進みます



8

マーク回航終了！



アプローチ！



7



2
風向きとマークの
位置を考えながら

マーク回航



3



5



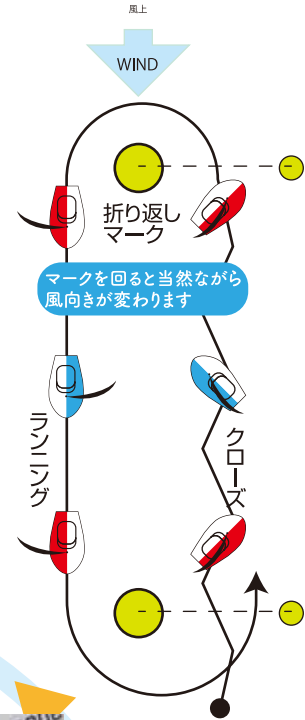
4

もたつくと沈む!!

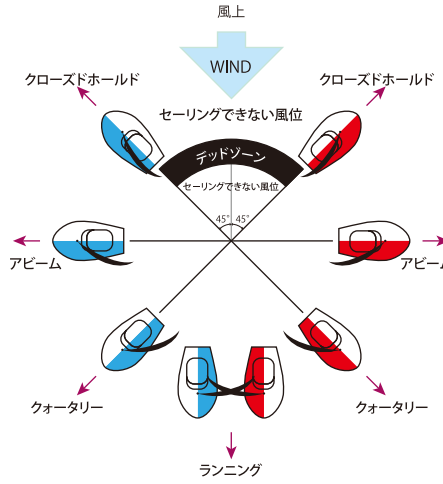
タッキングのおおまかな手順です

- 1：ティラーをゆっくり押してメインシートを引く
- 2：艇が風上に向かって回りだし、それに伴ってブームとセーリングが艇の中央に戻ってくる
- 3：セーリングが、それまでとは反対側の舷に移動するのでセイラーは頭を下げてブームをくぐる
- 4：反対側にセーリングが移って風をはらみます。乗員は、それまでとは反対側のデッキに座ってティラーを正対(真っ直ぐの位置)に戻します。ここでもたつくと沈(チン)します。
- 5：風の強さや方向に合わせてメインシートの開き具合を調整しながら、新しいコースを定めます。

一番シンプルなソーセージコース



風向きに対しての進み方の名前があります



【ジャイブをする】

風上に向かって走っている時に方向を
かえることを「タッキング(通称タック)」と
いうのと反対に、風下に向かって走っている時に
向きを変えることを「ジャイビング(通称
ジャイブ)」と言います。

タックは、艇がいったん風上に向いて、
セーリングが風をはらまない状態になってから、
ふたたび風をはらんでいきますので、
方向転換中にブームが勢いよく回転する
ことはまずありませんが、ジャイブは風下
に向かって追い風を受けた状態で方向転
換することになりますから、ブーム(セー
リング)は勢いよく回転します。しかも、艇の
外に大きく張り出したセーリングを反対舷に
移すわけですから、ブームが移動する距
離も、クローズホールドの比ではありません。
風が強いときは、艇のバランスに始終
注意することが必要になります。



撮影中に友達がい
たのでしばし併走し
てみました
かっこいい？



途中で大学生の
ナショナルチーム
と出会いました



海上でコーチに
ラダーにヒビが!と言われ
るすごい視力!!WWW